

# 移動式粉末消火設備 施工要領

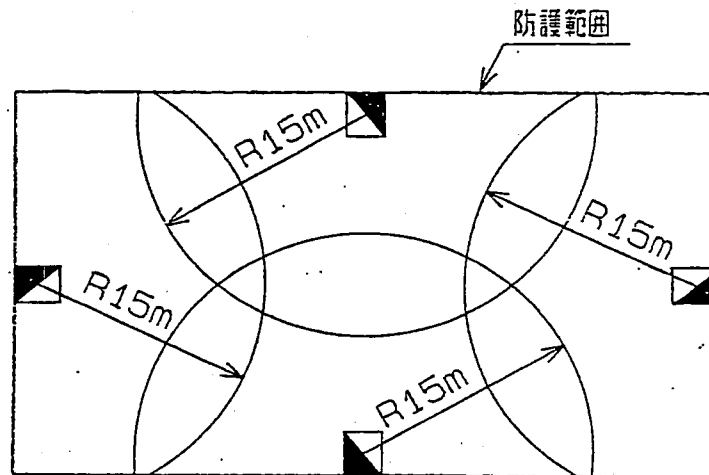
適用機種 品番

M-33 型

## 1 機器取付

(1) 取付位置を設定します。

出入口の付近に1台目を設置し、防護対象物を半径15mで包含できる位置、および表示灯が見えやすい位置を設定します。(消防法 施行令 第十八条)



### 留意事項

扉の開閉やホース、ノズルの引き出しに支障がない箇所に設ける。

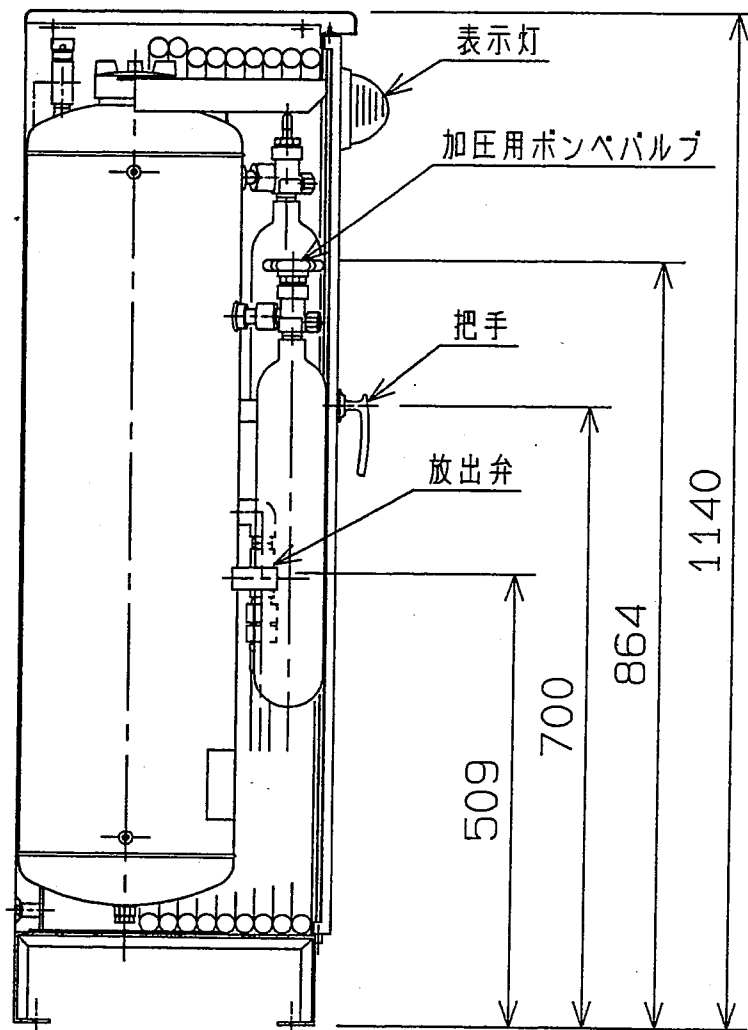
衝撃等による損傷の恐れが少ない箇所に設ける。

必要に応じ、保護のための防護柵を講じる。

火災の際の延焼の恐れおよび煙が著しく充満する恐れが少ない場所に設ける。

表示灯や標識がよく見えるよう設ける。

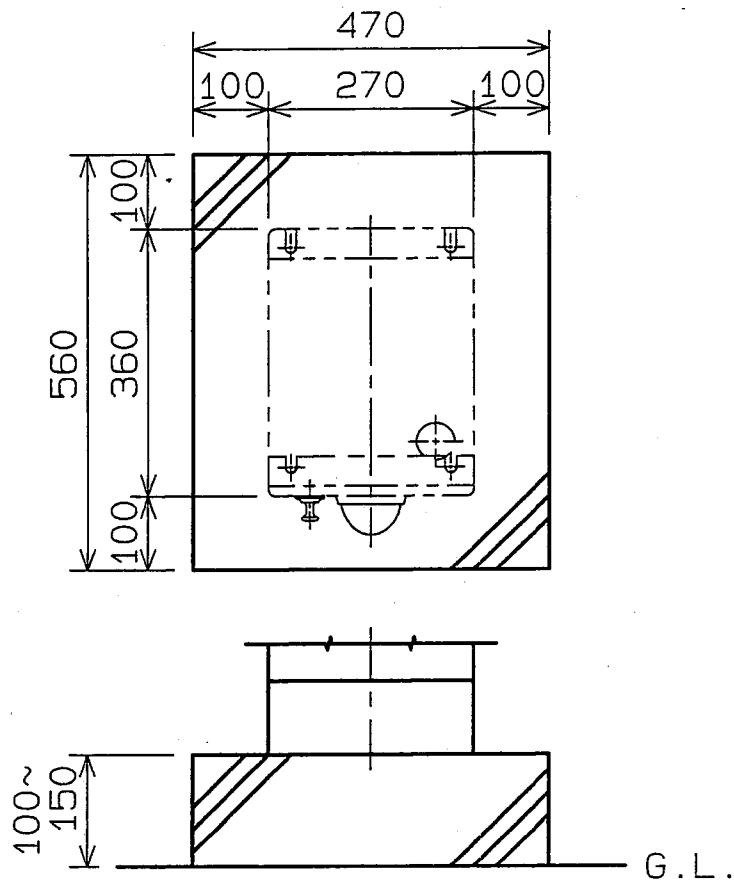
- ② 移動式粉末消火設備の起動装置の操作部（扉の把手、加圧用ポンペバルブ、ハンドノズル等）は、床面からの高さが0.8メートル以上1.5メートル以下となるよう設置する。（消防法 施行規則 第十九条第4項第十五号八）



**留意事項**

アンカー固定の際の台座の高さに注意ねがいます。

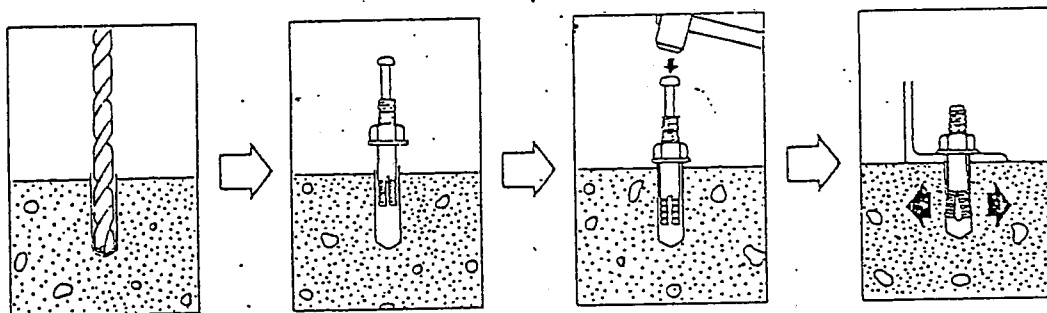
- (3) 基礎コンクリートを打設します。(100kgの荷重に耐えられる構造とする。)  
 基礎の大きさは格納箱の外径寸法に20cm加算した大きさとしします。  
 高さは10cm以上としします。(12cm~15cm程度が望ましい。)



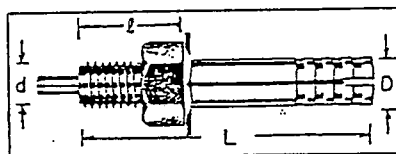
- (4) 仮枠を作り、生コンを入れます。  
 水平機にて水平を確認の上、仕上げます。
- (5) 2~3日 養生します。



- (7) 格納箱下部の脚には、アンカーボルト用の取付穴があります。  
振動ドリル又はコンクリートドリルで野書いた位置に使用するアンカーボルトに  
合わせた穴をあけます。
- (8) オールアンカー（後打ち式おねじ形アンカーボルト）を打ち込みます。  
ステンレス製アンカーボルトを使用すれば、後の補修が楽におこなえます。  
アンカーボルトの径はM8～M12程度のものを使用してください。



**オールアンカー**  
**SC** コンクリート用  
TYPE ステンレス製



品番	ネジ径 d	外径 D	全長 L	ネジ長さ l	ドリル径
SC-645	6	6	45	15	6.4
660	6	6	60	20	6.4
850	8	8	50	20	8.5
870	8	8	70	25	8.5
1050	10	10	50	20	10.5
1060	10	10	60	25	10.5 一般
1080	10	10	80	25	10.5
1090	10	10	90	30	10.5
1010	10	10	100	30	10.5
1012	10	10	120	30	10.5
1260	12	12	60	20	12.7
1270	12	12	70	25	12.7
1290	12	12	90	30	12.7
1210	12	12	100	30	12.7
1212	12	12	120	50	12.7

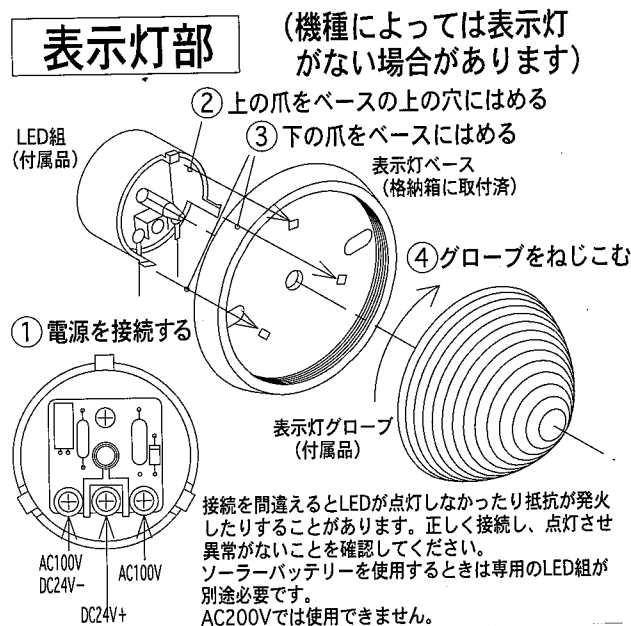
**留意事項**

移動式粉末消火設備の格納箱は、震動等により転倒しないようアンカーボルト等によりしっかりと据え付けてください。

(9) 平ワッシャーで格納箱の水平を調整し、ナットを締め付けます。  
ボシ（キャップ付きナット）を取り付けます。

(10) 表示灯を取り付けます。

電源回路はAC100Vの専用回路で結線します。



### 留意事項

表示灯の回路の配線は、電気工作物に係る法令の規定によるほか、次に定めるところによる。(消防法 施行規則 第十二条第五号)

- ① 電源は、100Vの交流電源で、専用回路で結線する。
- ② 配線は、600V二種ビニル絶縁電線またはこれと同等以上の耐熱性を有する電線を使用する。
- ③ 金属管工事、可とう電線管工事、金属ダクト工事またはケーブル工事(不燃性のダクトに布設するものに限る。)により設けること。  
ただし、消防庁長官が定める基準に適合する電線を使用する場合はこの限りでない。

## 2 電気主要機器材料

- (1) 電線管 JIS規格品
- (2) 同上支持材料
- (3) プルボックス 鋼板製
- (4) ケーブル JIS規格 電線 CVまたはCVC（所轄消防所と打合せ致します。）

## 3 金属管工事

- (1) 管の切り口は、リーマ等を使用して平滑に仕上げます。
- (2) 管を曲げる場合は、管の断面が著しく変形しないように曲げ、角度は90度までとします。
- (3) 付属品は管および施工場所に適合するものを使用します。
- (4) 管の支持はサドルやハンガー等を使用し、支持間隔は2m以下とします。
- (5) 管とボックス等との接続点に近い箇所に管橋屈曲箇所を固定します。

## 4 配線工事

- (1) CVケーブルまたはCVCケーブルを金属管に通線します。
- (2) 通線に際してケーブルの被覆を損傷しないようにするとともに、汚れないように十分注意して通線します。
- (3) ケーブルの分岐等にともなう接続箇所は必要最少限とします。
- (4) 接続は専用の接続器具および工具を使用します。
- (5) 接続箇所は、絶縁性がシースと同等以上の効力を有する絶縁テープを巻き付けます。

配線と機具線との接続は、接続点に張力が加わらず、機具その他により押されないようにします。

## 5 試験

工事完了後、絶縁抵抗試験ならびに表示灯の点灯を確認します。